

2019 年度実施概要

学校名

阪南市立舞小学校

採択活動名

アマモから考える海の環境学習

取り組みの概要

1. 取り組みの概要

阪南市立舞小学校は運動場には山の一部やアスレチックがあり、校舎から大阪湾を望むことができる豊かな自然に囲まれた場所にある。冬になると、大阪湾で唯一行われているという海苔の養殖の様子を見ることがもできる。そのような自然に恵まれた環境にある子どもたちだが、環境問題について関心が低いのが現状である。特に海の環境問題に関しては、海はそんなに汚れていなくて問題はないという認識を持っている子が多い。

そこで、「アマモ」という海草を題材に、今大阪湾で起こっている環境問題と向き合い、自分たちが海の生き物を守るためにできることを考える学習を行った。漁業や環境問題に携わる NPO の方々の協力を仰ぎ、体験的な活動を繰り返し行うことで、海の環境について興味を持ち、自分たちにとって身近な問題であることを実感させたい。また、自分たちでアマモを育てて植えるなど、環境保全のための取り組みを実際に行うことで、その場だけの学習にとどまらないようにしたい。

「アマモ」の学習から身近な環境問題へと学習の幅を広げ、自分たちの日常生活に生かしたり、地域や家庭に環境を守るための取り組みを発信したりするなど、具体的な行動につながることを期待している。

2. 目標

- ①「アマモ」から、「大阪湾」の環境について知る
- ②アマモ場にいる海の生き物にふれることで、アマモのすばらしさや大切さに気づき、海の環境を守っていこうという気持ちを持つ
- ③「アマモ」を育てて植えるなど、海の環境保全の為の実際の取り組みを行う
- ④海の環境問題について自分たちで課題を持ち、調べたりまとめたりして、海の生き物を守ることの大切さを周りの人に伝える

3. 指導計画

	テーマ・概要	活動計画	教科等の関連	実践の評価
1年	海の生き物について知ろう	●海の生きものとなかよし ・ちりめんモンスターを探そう 10/18 (金)	生活科 図工 国語 道徳	・楽しみながら海の生き物の分類ができる。
2年	海の生き物について知ろう	●海の生きものを知ろう ・ちりめんモンスターを探そう 10/18 (金)	生活科 図工 国語	・楽しみながら海の生き物の分類ができる。 ・大阪湾の海の生き物について知ることができる
3年	海藻についてくわしく学ぼう	●海藻って？ ・海藻おしばをつくらう 10/18 (金)	総合的な学習の時間 理科 図工	・海藻の役割や種類について知ることができる ・海藻の特徴を活かして作品をつくることできる。
4年	アマモ場にいる海の生き物にふれよう	●海の生き物観察をしよう 地引き網体験をしよう 6/6 (木) ●海苔すき体験をしよう 2/4 (火) 2/14 (金)	総合的な学習の時間 社会 理科	・楽しみながら海の生き物にふれることができる。 ・アマモ場が生き物にとって大切な場所であることに気付く。 ・海苔の養殖について学び、海苔すきを体験することができる。
5年	アマモから、大阪湾についてくわしく学ぼう	●大阪府立水産試験場の見学をしよう 9/26 (水) ●アマモの種を西鳥取の海に植えよう・自分たちで育てよう 11/7 (木) ●海洋ゴミについて学ぼう ・環境問題の調べ学習をしよう 10/1 (日) ~ ・プラスチックごみについて詳しく学ぼう 教育講演会 講師：関大6ストローズ 「プラスチックゴミ削減にとりくもう」 11/10 (日) ・海洋ゴミ調べ 12/19 (木) ●自分たちでワカメを育てて収穫しよう 12/16 (月) 2/27 (木)	社会科 総合的な学習の時間 家庭科	・アマモが海の環境によい影響を与えることを知る。 ・大阪湾の現状をくわしく知る ・地元の漁業について学ぶ。 ・様々な環境問題に興味関心を持って調べることができる。 ・ワカメの養殖について学び、ワカメを育てて収穫することができる。 ・アマモの世話を進んで行う。
6年	大阪湾の生き物を守るためにとりくもう	●自分たちが育てたアマモを海に植えよう 5/20 (月) ●大阪湾を守るために自分たちができていることを考えよう ・アマモの種を取って5年生に引き継ごう 6/6 (木) ・アマモの種子選別をしよう 9/9 (月) ・海岸のゴミ拾いをしよう 12/18 (水) ●自分たちの取り組みを伝えよう ・G20 海洋教育シンポジウム 6/29 (土) ・JRC SDGs 研究発表 1/26 (日) ・海洋教育実践報告会 2/7 (金)	総合的な学習の時間 社会 理科	・アマモが海の環境によい影響を与えることを知り、アマモ場を守るための活動を自分たち考え、実行することができる。 ・これまで学習したことをまとめ、環境保全のための自分の考えを周りの人に伝えることができる。

4. 実践の成果

- ・各学年に応じて環境学習を行うことができ、単発で終わるのではなく、各学年にまたがって継続的な学習体系を作ることができた。
- ・たくさんのゲストティーチャーの方が関わってくれたので、より専門的で興味深いお話を聞くことができた。また、体験的な活動が数多くあるので、子どもたちも興味関心を持って学習することができた。
- ・アマモを実際に自分たちで育て、それを下級生に引き継ぐことで、多くの子がアマモの成長に関心を持つことができた。
- ・6年生が「G20 配偶者プログラム 海洋教育に関するシンポジウム」や「JRC メンバーによる SDGs 研究発表」、「阪南市海洋教育実践報告会」など多くの発信する機会を持つことができた。そして、学校の取り組みや自分たちの思いや願いを、幅広い人たちに発信することができた。同様に児童集会でも発表することで、学校の中で海洋教育が身近な存在になりつつある。PTA 新聞や学校だよりにも学校全体の環境学習の取り組みが一面で掲載され、地域や阪南市全体に舞小学校の取り組みを伝えることができた。
- ・今年度の教育講演会では、G20 で共に発表した「関西大学6 ストローズ」さんをお招きし、海洋ゴミ問題について詳しく教えていただくことで、子どもたちの中で自分たちの海を守ろうという意識が芽生えてきた。特に5・6年生は自分たちの海の活動のついでに海岸のゴミ拾いを自分たちから進んで行うなど、これまでなかった子どもの姿を見ることができた。

5. 次年度への課題

昨年度と比べて、身近な環境問題について自分たちができることを考えたり、具体的な取り組みを実施したりすることができたが、舞小学校の山が身近にあるという環境を生かした取り組みをしていく必要があると考える。

来年度は栄養の「循環」という点を重点的に捉え、山が近い環境を生かした取り組みを進めていき、より実感の伴った環境学習を進めていきたい。

活動中の写真



G20 海洋環境に関わるシンポジウムの様子



海の生き物観察の様子



海岸のゴミ拾いの様子



海洋ゴミ調べの様子

実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

1. 海の生きものとなかよし(1年)
2. 海の生きものを知ろう (2年)
3. 海藻って? (3年)
4. 海の生き物観察をしよう 地引き網体験をしよう (4年)
5. 海苔すき体験をしよう (4年)
6. 大阪府立水産試験場の見学をしよう (5年)
7. アマモの種を西鳥取の海に植えよう・自分たちで育てよう (5年)
8. 海洋ゴミについて学ぼう (5年)
9. 自分たちでワカメを育てて収穫しよう (5年)
10. 自分たちが育てたアマモを海に植えよう (6年)
11. 大阪湾を守るために自分たちができることを考えよう (6年)
12. 自分たちの取り組みを伝えよう (6年)